

第29回

うつのみやこども賞だより

平成24年度 第6回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『よるの美容院』

市川朔久子／著 （講談社）

～読んだ本の感想より～



●しゃべれなかったまゆ子が、そうたのおかげですこしずつしゃべれていくところで、まゆ子の成長の様子がえがかれていて、面白く話にひきこまれたし、感動的で、すごく印象にのこりました。

●タケルの手紙のところが、とても感動して、まゆ子のキモチがすごくわかって、とても泣ける本でした。

●題名のくふうがされていたと思いました。こわいと思ったけれど、だまされた感じがしました。

●よかった。題名を見て不思議だなんて思った。

●読みやすく、とてもおもしろい。

●初めて颯太に会った時、まゆ子は無愛想だったけど、何回も会ってしゃべっているうちに二人の友情が深まっていったところがよかったです。

●季節ごとに変わる大福とシャンプーがおもしろかった。

●美容院の様子がありありと浮かんできて、読みやすかったです。

『魂を追う者たち』 廣嶋玲子／作 （講談社）

●妹の魂をとりもどすために、仲間たちと旅に出るところがおもしろかった。

●キバが大王カゲロウの背にのって、ディンカたちを助けに行ったところが、すごくおもしろかった。砂獅子たちの部分がおもしろかった。

●妹のために、きけんをかえりみず助けに行ったディンカのすがたに心がうたれました。

●最後にセナのたましいがもどってきたところで、なんだか「兄弟（姉妹）のきずながいいな」と思った。

『カナナ道のむこうへ』 くぼひでき／作 （小峰書店）

●カナナともちゃんの友情はとっても感動したし、まみちゃんの作るスイーツはとっても美味しそうでした。まみちゃんが夢を追いかける姿はとってもたのもししいし、カナナが夢を見つけようと頑張る姿に感動しました。

●ところどころにレシピが書いてあったので、今度それを作ってみたいと思いました。

●カナナが将来の夢になやんでいる所が「自分といっしょだな～」と思った。

『お父ちゃんの音や！』 大野圭子／作 （文研出版）

●耕太の言う「玉子焼き」とは私も始めはよく分かりませんでした。が、とってもおいしそうなので食べてみたいです。

●関西弁が会話にふくまれていて、テンポよく読めました。玉子焼きという食べ物にも興味がわいてきます。

●二人は友達になってよかったと思いました。二人で遠いところに行けるなんてすごいと思いました。お父さんに会えてよかったなあと思いました。